

美術科

1 美術を学ぶ意義

小学校の「図工」は、中学校ではより芸術性を意識した、新しい教科名「美術」に変わります。人は常に「美しさ」にあこがれ、豊かな人間性や生き方を求めるものです。美術では、制作・鑑賞活動を通して、形・色・素材など視覚や触覚を通じたコミュニケーション能力や心の成長を図ります。その事を通して、大人への成長の基礎を形づくる美的感性を養い、社会的一員として文化の担い手になる事を目指します。

2 授業について

○ 受け方（心構え）

人間はだれしも、美しいものにあこがれをもっています。「美しい」と感じる心は人それぞれに異なっており、感じたことを自分なりの表現で制作できる素晴らしさがあります。でも、基礎的なことが身に付いていないと、思うように表現できず面白くなってしまいます。

そこで、美術の時間には、目も心も手も足も使い、真剣になって取り組んでください。小学校の時、図工が下手だったとか、苦手だったと思っている人でも、中学校にきて本気で学習すると必ずおもしろくなり、上手になるものです。

美術の学習では、自由に想像をめぐらす喜びとともに、手作りの体験や、物に対して今までより深く好きだとか、美しいとか、醜いとかの感じるこころを育てることが大切です。“美しさを感じ”ても、見た人の“心”が動かされて“これをとらえよう”とする思いがしっかりしていかななくては、美術の学習にはなっていきません。

美術といっても、現実の生活から離れたものではありません。「どう感じるのか」ということから具体的になるのです。したがって美術の学習は“見える幸せや表わす喜び”に気づくところから始まります。美術は人間として生きて“どう感じるか”を大切に、新たな自己への発見へと進むことが必要な教科なのです。自分のこころの動きに注意深くなり、“深く”とか“暖かく”とかに注意する目と心を育てることが、美術の教科では大切なのです。感じる、味わう、じっくり考える、的確な判断をする、つくりあげるなどの体験をとおして人間らしいこころを育てていきましょう。

○ 約束

- ① ベルとともに授業ができるように準備をしておくこと。
- ② 用具は自分の手と同じです。しっかり整え、大事に扱い、手入れや後始末をしっかりとる。
- ③ 制作中は黙って集中し、自分の目と心を頼りに、納得いくまで追求しよう。
- ④ 自分のイメージを表現するため、あらゆる工夫と精一杯の努力をしよう。
- ⑤ 作品は人間性の現れです。自分の努力すべき点が見つかったら、素直に直す努力をしよう。
- ⑥ 作品は自分と同じです。自分の作品も他の人の作品も大切にしよう。
- ⑦ 使用した教室の後片付けは、協力してみんなで行おう。
- ⑧ 友達同士の作品を批評しあい、自分の表現したいことが相手に伝わっているか確かめたり、お互いの良さを認め合おう。

※ 授業で味わってほしい楽しさ

楽しい授業をしたいと思います。しかし、「楽しさ」にもいろいろあります。「美術の時間は、みんなおしゃべりをしながらできるから楽しい」とか、「自由な雰囲気が楽しい」といった「楽しさ」を美術の楽しさだと感じている生徒も見られます。

しかし、授業を通して味わってほしい美術の楽しさは、新しいものを生み出す楽しさです。そして、苦労して出来上がったときの喜び、みんなによさを認めてもらったときの嬉しさなのです。

3 家庭学習について

制作が全体より遅れたり、その時間内に課題が終わらなかったりした場合、次回までに進めてくるように宿題を出すことがあります。また、夏休みには全学年で、各種絵画・ポスターコンクールの作品を一人一点作品制作し、応募しています。

定期考査で美術の試験を実施している学校では、以下のような内容の問題が出題されます。

- ・ 知識問題…美術の用語、用具の使い方、授業中に学習したポイントなど。
- ・ 実技問題…実際にスケッチやデザインを時間内に描く問題です。
- ・ 鑑賞問題…指定された作品を味わい、自分の感じたことや考えたことを文章にします。

4 評価について

【関心・意欲・態度】

自分から進んで表現や鑑賞の活動に取り組み、その喜びを感じ、美術を愛好しているか。
(準備物の確認、制作や鑑賞に取り組む姿勢、プリントや作品の提出状況から判断します)

【発想・構想の能力】

自分の思いや想像したことをもとにして、作品にどのように表すか考え、より美しく、より良いアイデアを組み立てることができるか。

(アイデアスケッチ、下描き、完成作品、定期テストの実技問題などから判断します)

【創造的な技能】

表現の技能を身に付けて、表わした考えや思いを表わすための表現方法を工夫して、より美しく、より良いアイデアを組み立てることができるか。

【鑑賞の能力】

美術や文化遺産などの作品に親しみ、感性や想像力を働かせて、よさや美しさを感じ取って味わい、理解することができるか。

(鑑賞の授業での取り組み、鑑賞プリント、定期テストの鑑賞問題から判断します)

4 教師からの願い

美術で大切なことは、作品作りを通して「自分自身を見つけること」「思いを表現すること」にあります。ぜひ、中学校の美術で、自己表現するやりがいや、楽しさを味わってください。また、美術にとって答えは一つではなく、それぞれに様々なゴールがある教科です。自分の目標をしっかりとめて活動に取り組み、友達の個性や良さを認め合い、様々な価値観に触れて、人としての視野を広げることにつなげていってほしいと思います。